図3-9 雉子橋門南東方向の隅角部石垣

図3-10 一ツ橋門橋台石垣残存部

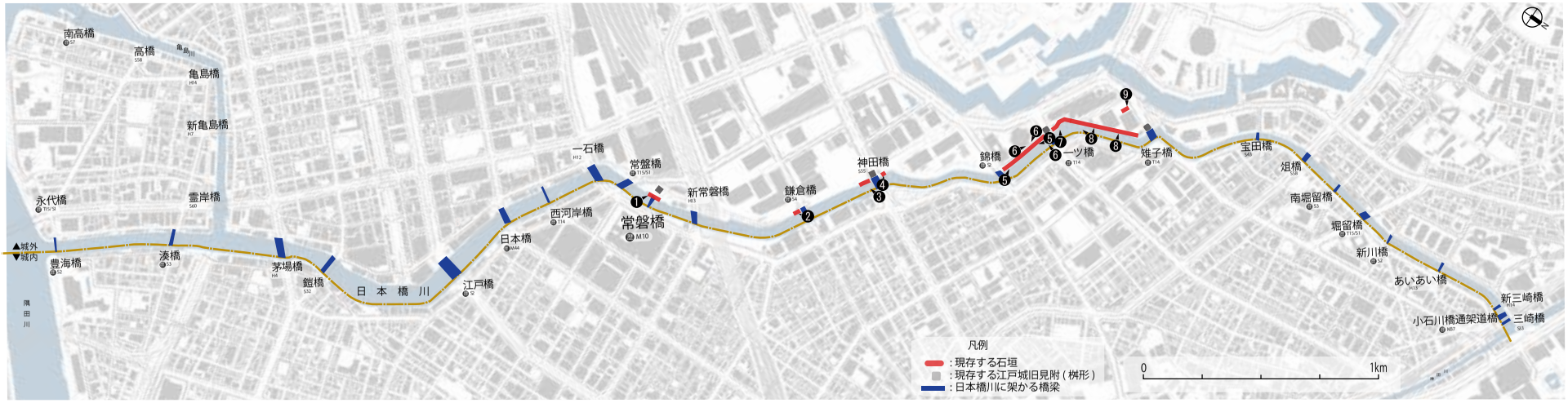
図3-11 一ツ橋東方の隅角部石垣

図 3-12 錦橋東方の隅角部石垣

図 3-13 錦橋東方の隅角部石垣、上部側面

図 3-14 神田橋東方の橋台石垣の一部

図 3-15 常盤橋門跡周辺の石垣




❶常盤橋

❷鎌倉橋下流右岸

❸神田橋下流右岸

❹神田橋上流右岸

❺錦橋上流右岸～一ツ橋下流右岸

❻一ツ橋下流右岸

❼一ツ橋上流右岸

❽一ツ橋上流右岸～雉子橋下流左岸

❾雉子橋門跡

図 3-17　日本橋川（旧外堀）に残る江戸期石垣残存状況図

4）常磐橋

構造補強の観点から控え長が短い輪石成や劣化の激しい壁石の交換を行ったが、石橋本体はほぼ建設当時の状態を保っている。修理工事前に失われていた水切石と高欄は復元整備を行った。基礎構造についても、十露盤基礎で使用された木材のうち、劣化して取り換えが必要と判断されたもの以外は当初材を保存しながら修理を行った。

## （2）地下遺構の保存状況

昭和44年（1969）に主都高速道路八重洲線の建設工事により開削された範囲、東京メトロ換気口設置により掘削された部分以外は地下遺構が残されている部分が多い。

1）枡形石垣地下遺構

①北側石垣

首都高速八重洲線建設工事により開削されていないＡ面東端付近、および冠木門脇雁木下より石垣の根固層が確認されており、開削を受けていない部分の石垣地下遺構は残存していると考えられる。

②南側石垣

首都高速八重洲線建設工事により開削されていないＥ面東側で、石垣の根固めとみられる栗石層が確認されている。また、冠木門脇雁木下より裏込め支持層が確認された。これらのことから、南側石垣東側の遺構の依存状態は比較的良好であると考えられる。

③石垣消失部

現在は区道104号線となっている枡形石垣南西隅角部から石垣の根石が検出された。石垣根石は調査区域外にも延びており、石垣消失部においても高速道路建設工事等で開削を受けていない個所については、石垣の地下遺構が残存していることが予想できる。

2）石垣以外の枡形関連遺構

門は冠木門、渡櫓門共に遺構が残存していない。木橋は右岸・左岸に橋台と橋脚の遺構が残存している。史跡指定地外になるが大番所の遺構も残存していない。

枡形の東側、常磐橋との接点周辺からは近世から戦後に至る橋（木橋、石橋）に至る路面の遺構が残されていることが確認された。

3）その他

日本橋川の沿って土塁が構築されていたことが絵図から明らかになっているが、土塁の地上部は現在は消滅している。地下の基底部等の遺構については調査が行われていないため不明である。

図 3-18　遺構保存状況図

## 6 文化財・文化資源の分布

### 江戸城関連史跡の保存状況

#### （1）特別史跡江戸城跡

江戸城内堀にある旧江戸城外桜田門、田安門、清水門が国指定重要文化財（建造物）に指定され、保護されている。

江戸城跡は、皇居および皇居外苑、北の丸に残る江戸城内堀の濠、土塁、石垣および城門や現存する歴史的建造物が昭和35年（1960）に国史跡（昭和38年（1963）特別史跡）に指定されている。

#### （2）国指定史跡江戸城外堀跡

江戸城外堀跡の史跡指定地は、赤坂門から牛込門に至る江戸城西方の堀を主体とし、飛び地として虎ノ門周辺に点在する石垣が指定されている。指定地は延長約4km（約 38ha）となり、惣構※全体からするとおよそ30％である。これは昭和30年代当時に残存していた範囲を主体に指定したためであった。史跡指定地は、我が国最大規模をほこる江戸城のなかで、地形を巧みに利用して人工的に築いた堀が水を湛えた旧態で残り、牛込門、四谷門、赤坂門は枡形石垣が残存し、また喰違はよく形態を留めている。

※ ここでは、江戸城外郭を取り巻く、外堀のほか神田川、溜池を含めた堀・河川をいう。

#### （3）周辺の文化財と歴史的建造物等

江戸城関連史跡以外にも常盤橋門跡周辺（江戸城外堀内）には多くの江戸城関連の遺跡や近代の歴史的建造物が存在する。主なものは以下の通りである。

##### 1）外堀諸門（見附）跡

常盤橋門跡と同じ江戸城外堀諸門（見附）跡は、西側の牛込門跡から赤坂門跡に枡形石垣の一部が残っている。東側では常盤橋門跡の他に雉子門跡、一ツ橋門跡にわずかに石垣が残されている【表3-1】。その他の門跡は遺構がほとんど残存しておらず、現地に説明板や石碑が設置されているのみである【表3-2】。

##### 2）周辺の近代建築

常盤橋門跡周囲1km圏内には、文化資源として価値が認められている近代建築が数多く存在する。主な建築の概要は【表3-3】の通りである。

##### 3）周辺の歴史的橋梁

常磐橋（石橋）が架橋されている日本橋川および隅田川、神田川には震災復興橋梁をはじめ、歴史ある橋梁が数多く存在する。常磐橋に関係の深いものとして日本橋川および神田川に架橋されている千代田区景観まちづくり重要物件の橋梁、代表的なものとして国指定重要文化財、東京都選定歴史的建造物、土木遺産の橋梁について【表3- 5～6】に概要を記す。

##### 4）周辺の歴史的土木遺産

その他、常盤橋門跡周辺の歴史的土木遺産として【表3-4】のような遺産がある。

表3-1 枡形石垣が残存している江戸城外堀門跡

| 番号 | 名 称 | 所在地 | 現 況 |
|---|---|---|---|
| 1 | 雉子橋門跡 | 千代田区一ツ橋 | 現雉子橋の上流約100mに位置した。隅角部の石垣が一部残る。 |
| 2 | 一ツ橋門跡 | 千代田区一ツ橋 | 現一ツ橋あたりに位置した。現雉子橋～一ツ橋～錦橋まで江戸城外堀の石垣が残っており、門の石垣も一部が残存している。 |
| 11 | 赤坂門跡 | 千代田区紀尾井町 | 地下鉄赤坂見附駅近くに位置する。枡形の石垣が一部残っている。 |
| 12 | 四ツ谷門跡 | 千代田区麹町 | JR 四ツ谷駅近くに位置する。枡形の石垣が一部残っている。石垣の上に生い茂るムクノキも江戸時代のものである。 |
| 13 | 市ヶ谷門跡 | 千代田区九段北 | JR 市ケ谷駅の北西に位置する市ケ谷橋のたもとに枡形の石垣が一部残っている。 |
| 14 | 牛込門跡 | 千代田区富士見 | 枡形は明治35年（1902）に撤去されたが、石垣の一部が残っている。 |

表3-2 その他の江戸城外堀門跡

| 番号 | 名 称 | 所在地 | 現 況 |
|---|---|---|---|
| 3 | 神田橋門跡 | 千代田区大手町 | 現神田橋付近に位置した。橋の横にわずかに枡形の石材が残る。首都高速の神田橋 IC 近くに説明板が設置されている。 |
| 5 | 呉服橋門跡 | 千代田区大手町 | 東京駅八重洲北口近くの呉服橋交差点近くに位置した。常盤橋門の南約200 mで近接していた。現在は認知できない。 |
| 6 | 鍛冶橋門跡 | 千代田区丸の内 | 東京駅丸ノ内口近くの鍛冶橋交差点付近に位置した。現在は説明板が設置されている。 |
| 7 | 数寄屋橋門跡 | 千代田区有楽町 | JR 有楽町駅と地下鉄各線の銀座駅の中間付近にある数寄屋橋公園あたりに位置した。有楽町駅前の横断歩道脇に、明治初期の数寄屋橋御門の写真と古地図のプレートが設置されている。 |
| 8 | 山下門跡 | 千代田区内幸町 | 帝国ホテル近くの JR の高架「山下橋架道橋」下に位置した。現在は説明板が設置されている。 |
| 9 | 幸橋門跡 | 千代田区新橋 | JR 新橋駅近くに位置したが、現在は認知できない。 |
| 10 | 虎ノ門跡 | 千代田区霞が関 | スポーツ庁の前の国道1号線付近に位置した。現地を認知できるものは無いが、近くの虎ノ門交差点に記念碑がある。また、虎ノ門駅周辺には江戸城外堀跡の石垣が残存しており、東京メトロ銀座線虎ノ門駅構内には「江戸城外堀跡 地下展示室」がある。 |
| 15 | 小石川橋門跡 | 千代田区飯田橋 | 現小石川橋付近に位置した。現在は説明板が設置されている。常磐橋は小石川橋門の石垣の石材を使用して建設された。 |
| 16 | 筋違橋門跡 | 千代田区神田須田町 | 現在の万世橋のやや上流に位置したが、現在は認知できない。 |
| 17 | 和泉橋門跡 | 千代田区神田佐久間町 | 現和泉橋付近に位置した。現在は「柳原土手跡と和泉橋」という説明板が設置されている。 |
| 18 | 新シ橋門跡 | 千代田区東神田 | 現左衛門橋付近に位置したが、現在は認知できない。 |
| 19 | 浅草橋門跡 | 台東区浅草橋 | 浅草橋の橋脇の小公園内に石碑が建つ。 |

※番号は次ページの図に対応

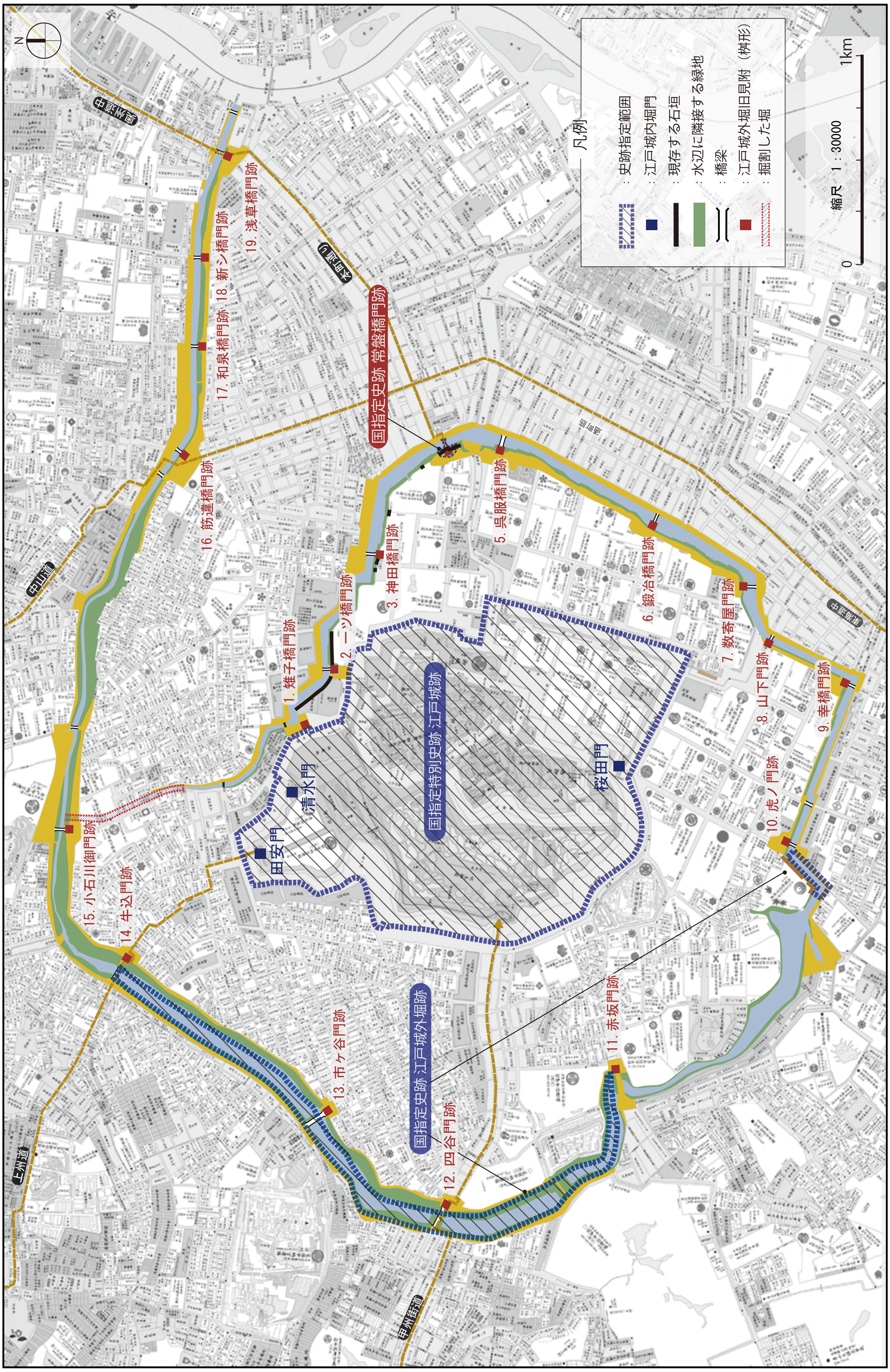



図 3-19　江戸城外郭門配置図

表3-3 周辺の近代建築

| 名 称 | 所在地 | 指定等 | 概 要 |
|---|---|---|---|
| 日本銀行本店本館 | 中央区日本橋 | 国指定重要文化財 | 明治 29 年（1896）竣工。辰野金吾設計。地上3階、地下1階。石及び煉瓦による古典主義建築。関東大震災時に発生した火災で中央のドーム及び内装の過半が焼失したが、ほぼオリジナルに近い姿を現在に残している。 |
| 三井本館 | 中央区日本橋 | 国指定重要文化財 | 昭和4年（1929）竣工。トローブリッジ・アンド・リヴィングストン事務所設計。地上7階、地下2階。鉄骨鉄筋コンクリート構造。「アメリカン・ボザール」と呼ばれる新古典主義様式。 |
| 三越日本橋本店 | 中央区日本橋 | 国指定重要文化財 | 昭和2年（1927）竣工。横河工務所設計。地上7階、地下1階。鉄骨鉄筋コンクリート造。関東大震災で被災した大正期の建物の鉄骨を活かしつつ昭和2年に完成。昭和10年（1935）の増築を経て現在の姿となった。 |
| 高島屋東京本店 | 中央区日本橋 | 国指定重要文化財 | 昭和8年（1933）竣工。高橋貞太郎設計。地上8階、地下3階。鉄骨鉄筋コンクリート造。戦後、村野藤吾の設計による増築によって現在の建物が完成した。高橋による当初部分と、村野の設計による増築部分が一体となっている。 |
| 東京駅丸ノ内本屋 | 千代田区丸の内 | 国指定重要文化財 | 大正3年（1914）竣工。辰野金吾設計。地上3階。鉄骨煉瓦造。辰野式フリー・クラシックの建築様式で煉瓦を主体とする建造物としてはわが国最大規模の建築である。昭和20年（1945）空襲により一部が消失し改修されたが、平成24年（2012）に建設当時の姿に復原された。 |
| 三菱一号館 | 千代田区丸の内 | － | 明治27年（1894）竣工。ジョサイア・コンドル設計。地上3階、地下1階。煉瓦組積造。昭和43年（1968）に解体されたが、三菱地所による再開発で誕生した施設の一つとして平成22年（2010）に復原され、美術館として利用されている。 |
| 明治生命保険相互会社本社本館 | 千代田区丸の内 | 国指定重要文化財 | 昭和9年（1934）竣工。岡田信一郎・捷五郎設計。地上8階地下2階。鉄骨鉄筋コンクリート造。5階分のコリント式列柱が並ぶ古典主義様式のデザインの建築。 |
| 日本工業倶楽部会館 | 千代田区丸の内 | 登録有形文化財 | 大正9（1920）竣工。横河工務所設計。地上5階、地下4階。鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）。日本における数少ない本格的なセセッション様式の建築。平成9年（1997）老朽化から建替えが計画され、会館の西側部分を保存、その他の部分を再現し、歴史的景観の保全を図ることとした。 |
| 旧東京中央郵便局 | 千代田区丸の内 | － | 昭和6年（1931）竣工。逓信省経理局営繕課（担当：吉田鉄郎）設計。地上5階、<br>地下1階。鉄骨鉄筋コンクリート造。わが国モダニズム建築の代表的存在であった。平成19年（2007）の郵政民営化後に同局敷地に超高層ビル・JP タワーの建設が計画され、低層階に旧東京中央郵便局の一部が保存されると共に、外観が復元された。 |

表3-4 周辺の歴史的土木遺産

| 名 称 | 所在地 | 概 要 |
|---|---|---|
| 新永間市街線高架橋 | 千代田区、港区 | 明治43年（1910）竣工。フランツ・バルツァー設計。新橋駅と上野駅を結び東海道線と東北本線を直結するとともに、その中間に中央停車場（東京駅）を設置するという鉄道計画に基づき建設された。煉瓦構造の連続アーチを基本として、道路との交差部のみ3径間ゲルバー鉄桁が用いられている。 |
| 小石川橋通架道橋 | 千代田区飯田橋 | JR 中央緩行線（総武線）水道橋駅～飯田橋駅間にある架道橋（鋼上路単純トラス橋）。明治37年（1904）ドイツの橋梁製作会社 HARKORT 社にて製作され、明治39年（1906）から使用されている。 |
| 外濠橋梁 | 千代田区大手町 | 大正7年（1918）竣工。東京駅～神田駅間に架かる鉄筋コンクリート構造のアーチ橋。アーチ形状は多心円が採用され、径間長は 38.1m で当時の鉄道アーチ橋としては最長。鉄筋コンクリートはメラン式を用い、表面の石張りにより石積み橋梁のような外観となっている。 |
| 総武線隅田川橋梁 | 台東区、墨田区 | 両国駅～浅草橋駅間の隅田川に架かる JR 東日本の鉄道橋。総武本線を両国駅から御茶ノ水駅まで延長するために昭和7年（1932）に架けられた。上部構造は3径間のゲルバー桁を基本に、中央径間にはアーチ部材を組み合わせたランガー鉄桁としている。日本では本橋で初めてランガー鉄桁を採用した。 |

表3-5 周辺の歴史的橋梁（日本橋川）

| 番号 | 名 称 | 架橋年代 | 指定等 | 説 明 |
|---|---|---|---|---|
| N-1 | 日本橋 | 明治 44 年（1911） | 国指定重要文化財 | 中央区日本橋一丁目と室町一丁目を結ぶ橋で、江戸時代から木橋が存在した。現在の橋は明治44年（1911）に竣工した石造2連アーチ橋である。装飾用材は全て青銅。ルネッサンス式橋梁本体に和漢洋折衷の装飾が調和する明治期を代表する石造アーチ道路橋である。 |
| N-2 | 三崎橋 | 昭和29 年（1954） | | 飯田橋三丁目と三崎町三丁目を結ぶ橋で、神田川と日本橋川の分岐点にあり、明治36年（1903）の日本橋川再掘削に伴い架橋された。現在の橋は昭和29年（1954）に改架さた鋼橋である。 |
| N-3 | 新三崎橋 | 平成14年（2002） | | 飯田橋三丁目と三崎町三丁目を結ぶ橋で、大正15年（1926）架橋の震災復興橋梁であったが、平成14年（2002）に架け替えられた。 |
| N-4 | 新川橋 | 昭和2年（1927） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 飯田橋二丁目と三崎町三丁目を結ぶ橋で、現在の橋は昭和2年（1927）に架けられた鋼・ゲルバー鉄橋である。 |
| N-5 | 堀留橋 | 大正15年（1926） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 九段北一丁目と西神田三丁目を結ぶ橋で、別名こおろぎ橋とも称された。江戸期はこの区間の川を堀留橋と称していたことから堀留の名が付けられたという。現在の橋は、大正 15 年（1926）RC・アーチ橋である。 |
| N-6 | 南堀留橋 | 昭和 3 年（1928） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 九段北一丁目と西神田三丁目を結ぶ橋で、昭和3年（1928）に架橋された鋼・ゲルバー桁橋である。 |
| N-7 | 俎板橋 | 昭和59年（1983） | | 九段北一丁目と神田神保町三丁目を結ぶ橋で、江戸時代に御台所町が近くにあったことから、古くは大橋・魚板橋とも呼ばれていたと言われる。昭和4年（1929）架橋の震災復興橋梁であたったが、昭和59年（1984）に架け替えられた。 |
| N-8 | 宝田橋 | 昭和43年（1968） | | 九段南一丁目と神田神保町三丁目を結ぶ橋で、昭和4年（1929）に架けられた時は木橋であったが、昭和43年（1968）に現在の鋼橋に架け替えられた。 |
| N-9 | 雉子橋 | 大正15年（1926） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 一ツ橋一丁目と同二丁目を結ぶ橋で、江戸時代の雉子橋門跡の近くにある。現在の橋は大正15年（1926）架橋の震災復興橋梁で鋼・ヒンジアーチ橋である。 |
| N-10 | 一ツ橋 | 大正14年（1925） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 一ツ橋一丁目と同二丁目を結ぶ橋で、江戸時代の一ツ橋門の直近にある。現在の橋は大正14年架橋の震災復興橋梁で石及びコンクリート造のラーメン橋台橋である。 |
| N-11 | 錦橋 | 大正15年（1926） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 大手町一丁目と神田錦町三丁目を結ぶ橋で、大正15年（1926）に架橋された震災復興橋梁である。RC・アーチ橋で中央に一連のアーチ、左右対称の半連アーチを持つ個性的な構造である。 |
| N-12 | 神田橋 | 昭和55年（1980） | | 大手町一丁目と内神田一丁目を結ぶ橋で、江戸時代の神田橋門跡にあたる。明治17年（1884）架橋の木橋が関東大震災で焼け落ちた後に、震災復興橋梁として大正14年（1925）にラーメン橋台橋が架けられた。現在の橋は昭和55年（1980）に改架さた単純桁橋である。 |
| N-13 | 鎌倉橋 | 昭和4年（1929） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 大手町一・二丁目と内神田一丁目を結ぶ橋で、震災復興橋梁として昭和4年（1929）に架橋されたSRC固定アーチ橋である。橋名の由来は江戸城を築く時に鎌倉から石材をここの河岸に陸揚げしたため鎌倉河岸と呼んだことによる。 |
| N-14 | 新常盤橋 | 昭和63年（1988） | | 大手町一丁目と中央区日本橋本石町三丁目を結ぶ橋で、市電解説に伴い大正9年（1920）に架けられた橋であったが、昭和63年（1988）に架け替えられた。 |
| N-15 | 常盤橋 | 大正15年（1926） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 大手町二丁目と中央区日本橋本石町一丁目を結ぶ橋で、大正15年（1926）に架橋された震災復興橋梁である。RC 造石張り二連のアーチ橋で、橋灯を組み込んだアールデコ調の親柱、小アーチをくり抜いた高欄等モダニズムの影響を感じさせるデザインである。震災復興事業で、上流の江戸時代の常盤橋門跡にある明治10年（1877）架橋の常磐橋を架け替えることなく、橋と枡形を一体的に保存して道路建設をした結果、この橋が創建された。隣接する常磐橋と意匠的な調和が図られている。 |

※番号は 83 ページの図に対応

表3-6 周辺の歴史的橋梁（神田川）

| 番号 | 名 称 | 架橋年代 | 指定等 | 説 明 |
|---|---|---|---|---|
| K-1 | 飯田橋 | 昭和4年（1929） | | 飯田橋三丁目と新宿区下宮比町を結ぶ橋で、明治初年（1868）に橋が架けられ明治41年（1908）に鉄橋に改架されたが、関東大震災で被災し昭和4年（1929）に震災復興橋梁として架設された鋼製桁橋である。 |
| K-2 | 船河原橋 | 昭和45 年（1970） | | 飯田橋すぐ東側にある橋で、もともと飯田橋と「カギ形」に配置された江戸城外堀と神田川の結節点にある橋である。現在の橋は昭和45年（1970）に架けられた鋼製箱桁橋である。 |
| K-3 | 小石川橋 | 平成24 年（2012） | | 飯田橋三丁目と文京区後楽一丁目を結ぶ橋で、江戸時代に小石川門があった場所に位置する。明治5年（1872）に城門が撤去された際に木橋を新しく架け替え、明治28年（1895）に甲武鉄道の飯田橋駅が設置された時に橋も修繕されたが、関東大震災で被災し昭和2年（1927）に震災復興橋梁として鋼橋が架橋された。平成24年（2012）に老朽化のため改修された。 |
| K-4 | 後楽橋 | 昭和 2 年（1929） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 神田三崎町三丁目と文京区後楽一丁目を結ぶ橋で、現在の橋は、震災復興橋梁として昭和2年（1927）に架橋された鋼製ヒンジアーチ橋である。 |
| K-5 | 水道橋 | 昭和 63 年（1988） | | 神田三崎町一丁目と文京区本郷一丁目を結ぶ橋で、橋名の由来はこの橋から約150m 下流に神田川上水の懸樋があったことによる。江戸時代の橋は現在地よりやや下流にあり、当時の橋台の石垣が今も残る。関東大震災後の昭和3年（1928）に鋼橋が架橋されたが、昭和63年（1988）に架け替えられた。 |
| K-6 | お茶ノ水橋 | 昭和6年（1931） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 神田駿河台二丁目と文京区湯島一丁目を結ぶ橋で、江戸時代に将軍家の茶の湯に用いる清水が近くから湧き出ていたことからこの名が付いた。明治24年（1891）に初の日本人設計の鉄橋として完成したが、関東大震災で被災し昭和6年（1931）に震災復興橋梁として鉄製桁橋が架けられた。石造風の親柱が特徴的である。 |
| K-7 | 聖橋 | 昭和 2 年（1927） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 神田駿河台四丁目と文京区湯島一丁目を結ぶ橋で、昭和2年（1927）に震災復興橋梁の一つとして架けられた。立体的な橋脚美は東京の新名所となり、北区滝野川の音無橋のモデルともなった。橋の名は一般から懸賞募集してつけられた。橋は、山田守の設計の SRC・トラスドアーチ橋である。 |
| K-8 | 昌平橋 | 大正 12 年（1923） | 千代田区景観まちづくり重要物件<br>東京都選定歴史的建造物 | 神田淡路町一丁目と外神田一丁目を結ぶ橋で、元禄4年（1691）将軍徳川家綱が湯島に聖堂を造営し、孔子の故郷に因んで昌平橋と名乗るように命じたといわれる。、明治6年（1873）に洪水で流され、明治32 年（1899）に再建された。現在の橋は、関東大震災前の大正12 年（1923）に竣工した。その後昭和5年（1930）に改修された RC 固定アーチ橋橋である。 |
| K-9 | 万世橋 | 昭和 5 年（1930） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 神田須田町一丁目と外神田一丁目を結ぶ橋で、最初は明治17年（1884）に架けられた木橋であり、その後新万世橋→万世橋と名称を替えた。明治36年（1903）にほぼ現在の位置に架けられたが、関東大震災で被害を受け、昭和5年（1930）にの RC 造アーチ橋が完成した。この橋は、巨大でアールデコ調の橋灯付き親柱が特徴である。 |
| K-10 | 和泉橋 | 昭和 5 年（1930） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 神田岩本町三丁目に架かる橋で、明治25年（1892）に鉄橋となり、欄干の唐草模様の中に「神田和泉」の文字が崩し模様で配されていた。現在の橋は、昭和5年（1930）に震災復興橋梁として架設された鋼ヒンジアーチ橋である。 |
| K-11 | 美倉橋 | 昭和 4 年（1929） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 東神田二・三丁目を結ぶ橋で、神田美倉町はもと佐柄木町・本銀町・紺屋町の蔵地からなり三倉地と呼ばれ、明治2年（1869）に町名の三を美に改めたことが橋名の由来となった。現在の橋は昭和4年（1929）に震災復興橋梁として架設された鋼ヒンジアーチ橋である。 |
| N-12 | 左衛門橋 | 昭和 5 年（1930） | 千代田区景観まちづくり重要物件 | 東神田二丁目と同三丁目を結ぶ橋で、江戸時代の橋北側に酒井左衛門尉の屋敷があったことから、この橋名がついた。明治33年（1900）発行の『新撰東京名所図会』には明治8年（1875）に架けられとあり、現在の橋は、昭和5年（1930）に震災復興橋梁として架設された鋼ヒンジアーチ橋である。 |

※番号は83ページの図に対応

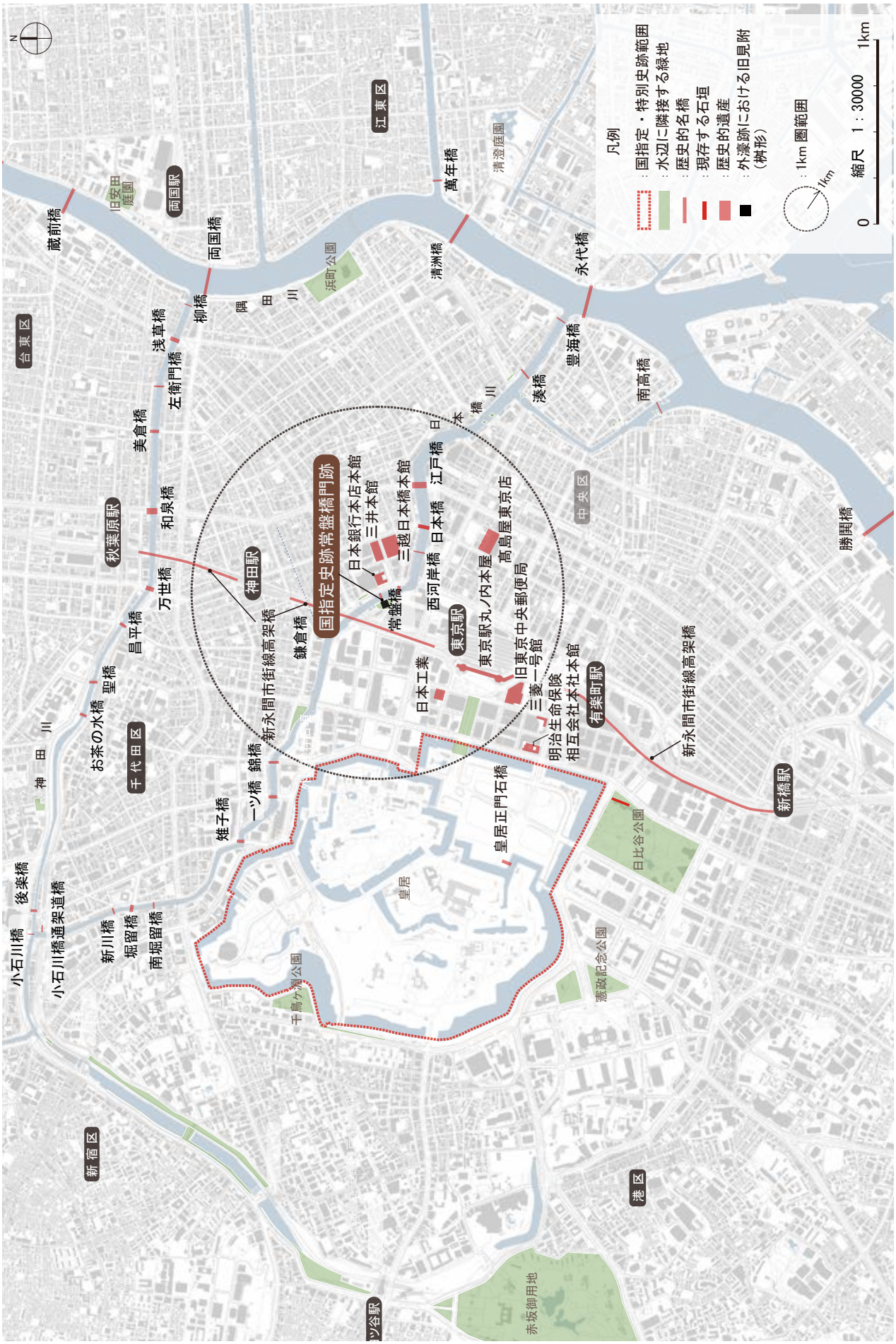



図 3-20　周辺の文化財と歴史的建造物の配置図